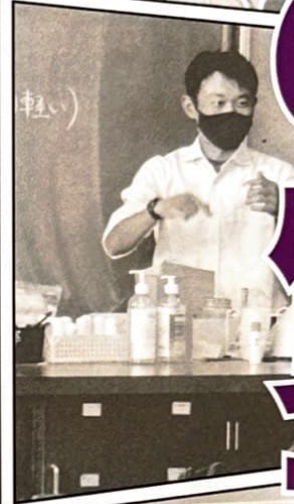
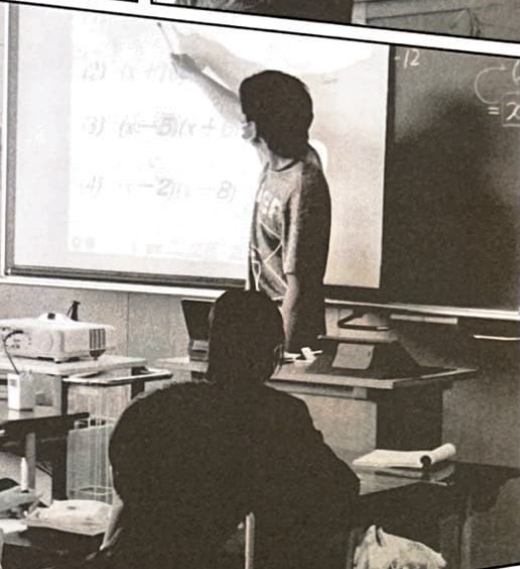


高
め
る
授
業
づ
く
り

学
び
の
質
を

令和元・2・3・4年度茅ヶ崎市教育委員会推薦研究校

令和2・3・4年度 かながわ学びづくり推進地域研究委託校



学びの質を高める授業づくり
～各教科、各学級における
目指す生徒像を見据えて～

令和4年10月26日 (水)

茅ヶ崎市立萩園中学校

はじめに

茅ヶ崎市立萩園中学校長 校長 丸山 修一

本校では、令和元年度より茅ヶ崎市教育委員会推薦研究、かながわ学びづくり推進地域研究委託を受け、「学びの質を高める授業づくり～各教科、各学級における目指す生徒像を見据えて～」をテーマとして、研究に取り組んでまいりました。

授業の質を高めるための授業改善とそのベースとなる学級経営を両輪ととらえ、授業研究に加え学級経営及び行事の取り組みに向けての協議等を計画的に設定し、教職員全員で指導力を磨き合ってきました。また、本校の生徒の学習意欲の向上や言語能力の育成を目指して「あたたかい聴き方・やさしい話し方」ステップシートを活用し、生徒が思いや考えを表現するベース作りにも取り組みました。コロナ禍により、学習活動に制約があり、生徒同士がつながり合う「協働的な学び」の実践に困難な部分もありましたが、ICTの活用など様々な創意工夫により新たな取組を行うことができました。さらに、研究を通して生徒の学びを丁寧に見取り、「個別最適な学び」につながる「個に応じた指導」を意識した実践が増えたと感じています。そして、生徒が自らの考えを発信しようとする意欲や自然発生的に仲間とともに学び合おうとする姿勢も見られるようになってきました。生徒にとって、教室が安全安心な空間であって始めて、自分の考えを表出することができます。これからも生徒が信頼し合い、一人ひとりが居場所を感じられる学級風土の醸成を第一の目標として研究に取り組んでいきたいと考えています。研究成果として、大きな変容が表れるには道半ばではありますが、目指す授業の在り方、目指す生徒の姿に一步一步着実に歩を進めていると感じています。今後もこれまでの取組を継続しながら本校の強みである「生徒の素直さ」と教員の「チームワーク」の良さを生かしながら、誰一人取り残すことのない授業づくりや自己有用感を育む学級経営を目指し、生徒一人ひとりの「学びの質」の高まりを追究していきたいと思えます。

最後に、本研究の推進にあたり多大なご支援をいただきました慶應義塾大学教職課程センター 教授 藤本和久先生をはじめこれまでご指導いただきました神奈川県教育委員会並びに茅ヶ崎市教育委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

あいさつ

茅ヶ崎市教育委員会教育長 竹内 清

萩園中学校が、令和元年度からの4年間にわたり、茅ヶ崎市教育委員会推薦研究校として研究に取り組み、この度、その実践の成果を発表されますことに、敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

萩園中学校は、「夢・希望・感動・感謝～『学び』を未来につなげよう～」をスローガンに掲げ、「知性をみがき、創造性豊かな人間を育てる」「協力と奉仕の精神を持ち、思いやりのあるやさしい人間に育てる」「絶えず努力し、心身ともに健康な人間に育てる」ことを学校教育目標に、地域や家庭と一体となって教育実践を進めておられます。

学びの質を高める授業づくりをテーマとしたこの度の研究では、「授業づくりと学級づくりは両輪である」という理念の下、教職員と保護者、学校のサポーターである地域の皆様が目指す生徒像の共通理解を図り、全ての子どもたちが互いを認め合い、支え合いながら学べる居場所としての学級集団づくりに一丸となって取り組んでこられました。生徒が安心して考えを伝え合う学びの在り方は、未来を生き抜く上で必要な主体的に課題に取り組んでいこうとする資質・能力につながるものであると拝察いたします。

また、こうした萩園中学校の取組は、「茅ヶ崎市教育基本計画」の基本方針の一つである「未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実」に資するものであり、この度の研究成果が市内の各小・中学校で広く共有され、今後の茅ヶ崎市の学校教育がさらに発展していくことを切に願っております。

最後になりましたが、本研究のために御指導・御助言を賜りました、慶應義塾大学教職課程センター教授 藤本和久先生をはじめ、これまで御指導いただきました講師の先生方に心より感謝申し上げますとともに、本研究を推進していただきました校長先生、教職員並びに御協力いただきました関係者、地域や保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後も、萩園中学校の教育活動が、益々充実し発展されることを祈念いたしまして、あいさつの言葉いたします。

学びの質を高める授業づくり

～各教科、各学級における目指す生徒像を見据えて～

～テーマ設定の理由～

本校では、平成28年度より「学びの質を高める」ことを研究テーマに取り入れてきた。「学びの質を高める」とは、生徒が主体的、協働的に課題解決をする学習を通して、他者と共に学び合う態度を養い、生きて働く資質・能力を身に付けていくことであると捉え、これまで研究を重ねてきた。研究の経過の中で、部分的に研究方法等を変更してきたが、「学びの質を高める」ことを目指しているのは現在も変わらない。令和元年度に茅ヶ崎市教育委員会より推薦研究校に指定されたことを受け、テーマに「学級」という単語を追加した。その理由として、質の高い授業を行う上で、質の高い学級集団の形成が不可欠だと結論付けたこと、加えて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためには授業だけではなく、日常生活における学級経営や行事などにおける指導も充実させる必要があると感じたことが挙げられる。日常の充実感が、学びへの意欲へとつながり学力向上にも大いにつながると信じている。

研究の方法については、「型」にこだわることなく、教師一人ひとりがテーマを掲げ、「質の高い授業づくり」を目指すことを大切にしている。前例踏襲的な「型」を捨て、本当に大切な部分は何かを考えることにより、一人ひとりの負担感を可能な限り軽減し、全職員で主体的かつ持続可能な取組を目指して研究を推進している。

～研究概要～

①研究テーマに沿った授業づくり・授業改善

SMJ (Strategy Meeting of Jugyou) の開催 & 校内授業研究会

②授業公開

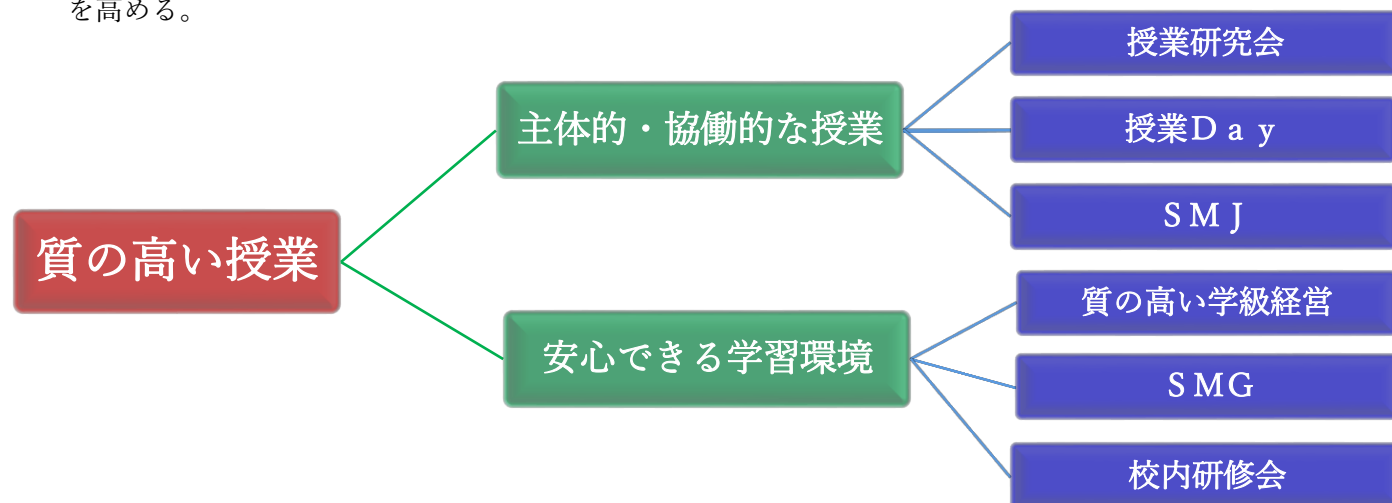
「授業Day」と題し、年3回、それぞれ3週間程度の期間を設定
教員は各期間、最低1回は授業を公開

③学級経営力の向上

SMG (Strategy Meeting of Grade <Gakkyu>) の開催 &
夏季休業中に研修会を開催

④聴き方・話し方指導

聴き方・話し方Weekの設定。ステップシートをB6判に縮小したカードを、月ごとに指定した教科で配付し、生徒、教員の意識を高める。



～校内研究 1年間の流れ（2022年度の主な取組）～

第1回	SMG	4月 4日（月）	<u>学級開き</u> に向けた実践例の共有
第2回	SMG	5月10日（火）	<u>体育祭</u> に向けた学級経営の共有
第3回	SMG	8月22日（月）	<u>合唱コンクール</u> に向けた学級経営の共有
第1期	授業Day	5月24日（火）～6月 3日（金）	
第2期	授業Day	9月14日（水）～9月30日（金）	
第3期	授業Day	1月23日（月）～2月10日（金）	
第1回	校内研究会	5月30日（月）	
第2回	校内研究会	9月21日（水）	
第3回	校内研究会	10月24日（月）	
	研究発表会	10月26日（水）	
第4回	校内研究会	2月 1日（水）	

～SMG－Strategy Meeting of Grade（Gakkyu）～

SMGとは、学級開きや体育祭・合唱コンクールなど学級経営との関連が深い行事等に向けて、職員同士で学級での取組について共有し、より良い学級経営にしていくために話し合いを行う場である。学年の枠を超えた担任・副担任5名程度の少人数グループにて、時期に合わせた議題について話し合うことにより、職員同士で主体的に学級経営について考えるきっかけをつくり、学び合う取組となっている。

具体的には、年度初めにSMGを行う際は「今年度の学級経営計画」というテーマについて個々の考えを持ち寄り、学級開きで何を語り、今後の取組の予定などについて共有を図る。自身の経験を語り、他者の取組を知ることによって、普段は見えづらい他クラスの学級経営方針や、活動について知ることができる。生徒に対する語りかけや、リーダーの育て方、行事の持ち方等に関しては、学年ごとに方向性が違う状況もあることから、それらを共有することによる新たな発見は多い。その中から、生徒たちの学級活動や行事等に対する自主的な参加を促すために自分も試してみたいものがあれば、積極的に学級経営に取り入れていくことができる。

同学年だけではなく、他学年の職員も含めて話し合いをすることは、3年間を見通した学級経営の在り方を学ぶとともに、自分の所属する学年の指導方針を再確認することができることから、学びの多い機会となっている。設定された時間内では話し足りないことも多々あるが、職員室では学級経営に関する会話が増え、風通しの良い職員室の雰囲気づくりにもつながっている様子が窺える。

～SMJ－Strategy Meeting of Jugyou～

SMJとは、授業研究会の一週間前を目安に、当日の授業案をグループで練り直すための話し合いの場である。この話し合いは、指導案の内容の検討ではなく、授業者の悩みや授業のねらいをグループで聞き、教科の枠を超えたアドバイスをし合える場となっている。教科の枠を超えた話し合いの場であるからこそ、新しい視点や手法が得られることもある。また、授業者の悩みを他の教員と共有することにより、細やかな授業の組み立て方を再構築することにもつながっている。

例えば、「生徒の発想を上手く引き出すにはどうすれば良いか。」という授業者の悩みに共感する教員が出てくる。なぜ上手くいかないのか、どうすれば良いのか、経験年数の長い教員や違った視点を持つ教員から意見を貰うことができる。グループで話し合っていると「発問の仕方は適切であるか。」「スモールステップを踏んでいる授業になっているのか。」「生徒同士が安心して自分の意見を伝えられているのか。」など、自分自身では気が付かなかった視点が見えてくる。この話し合いで授業の組み立てが再構築されていく。こうして授業案を元にした話し合いにより、生徒のより良い発想を引き出せる授業へと近づくことができる。

この取組では、授業者はもちろん、グループ全員が真剣に授業と向き合うことを通して、参加する全ての教員の授業改善につなげることができる。

～授業 Day～

平成22年度から今日まで萩園中学校では「授業Day」と題した全職員に授業を公開する期間を設定し、授業改善に取り組んでいる。授業Dayは、5～6月・9～10月・1～2月の期間にそれぞれ3週間程度ずつ設定している。

各教員は、各期間最低1回授業を公開し、より多くの教員に参観してもらえよう、A5判の指導略案を全教員に配付している。

授業Dayのメリットは授業者と参観者が気軽に授業研究に取り組めるような仕組みになっている点である。

授業者は指導案作成の時間を削減するため、指導略案を作成することになっている。また、指導略案に参観してほしい時間帯を記載することにより、参観者は授業を1時間通して参観しなくても良いこととしている。加えて、参観者に授業参観メモ以外の改めてのコメントを求めないことで、気軽に参観しやすくなっている。

授業参観終了後に、指導略案のメモ欄を元に授業についての情報交換を授業者と参観者が行うことで、授業者及び参観者の指導力向上にもつながっている。

令和4年度		授業 Day 学習指導略案				茅ヶ崎市立萩園中学校				
学年		教科		科		授業者				
日時	月 日 ()	校時	年 組 ()	月 日 ()	校時	年 組 ()				
場所	月 日 ()	校時	年 組 ()	月 日 ()	校時	年 組 ()				
個人研究テーマ										
単元・題材										
◆学習目標・ねらい(願)						◆ステップシート No				
						聴き方:		話し方:		
指導の流れ										
◆参観ポイント(注目してほしい点、新たな取り組みなど)、◎参観してほしい時間帯										
参観者メモ欄										

学年色の用紙に印刷し、前日までに全職員に配付してください

～あたたかい聴き方・やさしい話し方のステップシート～

「あたたかい聴き方・やさしい話し方ステップシート」では、聴き方と話し方について、それぞれ6つの項目を段階的に3つのステップに分けている。仲間の話や意見を聴き、自身で咀嚼し、自分の言葉で話すことで考えをまとめたり発展させたりすること。それらを繰り返すことで次第に考えを深めていけるようになることが目標である。

ステップシートの活用は、授業だけでなく、授業の基本となる学級活動でも行っている。あたたかく聴くことを通じ、他者の考えや多様な価値観等を認め、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組みやすい環境を構築する。やさしく話すことを通じ、自らも考え方を整理した上で対話し、学びがいのある場をつくっていく。これらにより、学級内で生徒が安心して語り合える環境を構築し、より深い学びを実現することができる。

萩園中学校では、各教室にステップシートを掲示している。また、毎月B6判に印刷し、月ごとに指定する教科の授業ノートに貼り、定期的に教師と生徒で確認している。そうすることで、より生徒に「あたたかい聴き方・やさしい話し方」が浸透し、生徒自身がそれらを意識しながら活動できるようになる。今後も、ステップシートを活用しながら、充実した言語活動を通して、確かな言語能力を身に付けさせていきたい。



～取組の成果と今後に向けて～

令和2年度からSMG (Strategy Meeting of Gakkyu) に取り組み、学級経営を1人ではなく複数人で考えていくようになった。年度初めや各行事前に行くことで、様々な考えを自分のクラスの学級経営に活用することができるようになった。さらに、令和3年度からはSMJ (Strategy Meeting of Jugyou) にも取り組み、校内研究前に授業づくりの悩みを職員全員で解決できるようになった。この他にも、年に3回行っている授業 Day 期間において、互いの授業を見合い、授業改善及び指導力の向上を図ってきた。SMG と SMJ においては、**最大でも 30 分**という時間制限を設け、授業 Day の参観はポイントとなる時間のみでも可能とすることで、研究への負担感を軽減し、持続・継続しやすい取組になっている。

生徒を対象とした令和3年度の学校評価アンケートにおいては、『学級内は話しやすく協力的で、安心して生活できる』という設問に対して『よくあてはまる』と『あてはまる』の回答の合計が**87%**で、学級内が居心地が良い、安心できる場所となっていると感じている生徒が多いことが分かった。『授業中は、活動に集中して取り組んでいる』という設問に対しては、『よくあてはまる』と『あてはまる』の回答の合計が**87%**で、授業に集中して取り組んでいる生徒が多いことが分かった。

一方、多くの生徒が集中して授業に取り組み、活発な学び合いが行われている中で、一番思考してほしい場面で、生徒が受動的になっていないか、また、学び合いの中で、疑問に感じていることや、困っていること、不安に思っていることなどが発信され、共有されているかといった部分については、引き続き丁寧に見取っていく必要がある。

今後の研究では、**すべての生徒が安心して生活できる学級づくりのために SMG 等の学級経営に係る研究を、質の高い学びを目指すために SMJ や授業 Day 等の授業づくりに係る研究を深めるとともに**、「生徒たちに気付かせたいことは何か」、「生徒たち同士でつながりたいポイントはどこなのか」を明確にすることで、さらなる学びの質の向上を目指し、より良い学校づくりに向けて取り組んでいきたい。

講師：藤本和久先生（慶應義塾大学教職課程センター教授）より

～萩園中学校の校内授業研究に寄り添って～

生活場面での指導、評価の妥当性と進路指導、定型化しやすい教科の学習、そして教員の多忙化——、数年前に萩園中学校において自覚されていた問題はどの中学校でも聞かれるものであったが、その深刻度は相当のものであったと記憶している。しかし、このような多様で複雑に絡み合う問題を、教師たちは何よりも授業自体の改善によって解決を目指そうとしたことに教育学者として強く関心を寄せることになった。

研究会のたびに、老若男女問わず、各教師がそれぞれのやり方で子どもたちの授業への能動的参加を促す試みを積み重ねてきた。どの教室も子どもたちの笑い声が上がり、教師とのテンポよい問答も、グループやペアでの意見交換やタスクへの取り組みもとても活発で、私もそのモードに圧倒された。中学校の授業がこれだけ楽しくもなり、前のめりの子どもたちを生み出すのだということを実践で示してこられた。

しかし、教師たちと私は、この良化傾向にある実践状況に対し、微かな、しかしとても深刻な問題点を見出し共有することになった。楽しさの中に埋もれている、子どもたちの「わからなさ」や「戸惑い」を私たちは看過してはいなかったか。子どもたちは、誰もが前のめりで学びに向き合っているし、授業への満足度もかなり高いのだが、自分の「わからなさ」や「未完の理解」を授業中に表出せず「置き去り」にしたままにしていなかったか。

いま、私の目に映る萩園チームは、楽しい授業のなかでこそ「わかる」、しかも仲間とともに「わかる」ようになる——この繊細な課題に向き合っている。表面的な授業観察ではなかなか見いだせない小さな変化だ。だが、子どもの発言で教師のアンテナに受信されているのは何か、彼らのノートに何が書かれているか、困っている子がどうふるまっているか、そんな視点で見つめなおしてみると、ハッとさせられることになるだろう。